

「農業×学生ラグビー」教育プログラムについて

《ニュージーランド（NZ）での、ラグビーアカデミーと農業教育の融合》

NZでは、ラグビーの育成機関（アカデミー）と農業教育を組み合わせたプログラムがいくつか存在する。例えば、『フィールディング・ハイスクール（Feilding High School）』は、ニュージーランド北島の学校で、ラグビーの強豪校でありながら、農業教育にも力を入れていることで知られている。ここでは、ラグビーと農業を組み合わせたユニークな教育カリキュラムが展開され、プロラグビー選手と農業経営者の両方を輩出するモデルが確立されている。



卒業生の中には、オールブラックス（NZ代表）の選手として活躍し農業・畜産経営者でも成功した選手や地元食品ブランドを立ち上げた選手が多数。

- ・アーロン・スミス（トヨタヴェルブリッツ所属）：オールブラックスのスクラムハーフとして活躍
- ・サム・ホワイトロック（埼玉ワイルドナイツ所属）：日本のWCUPでオールブラックス選手としても活躍
- ・セミシワシレワ（花園近鉄ライナーズ所属）
- ・その他多数

1.カリキュラムの特徴…ラグビーと農業の融合

① 農業実習とラグビートレーニングの並行学習

チームワークと規律を学ぶ場として、農業とラグビーの相性の良さを活用している。

【午前】：農業実習…学校が所有する農場で、牧畜・作物栽培・農業経営を学ぶ。

- ・牛・羊の飼育や土壌管理、栽培、農業機械の操作などの実習。
- ・収穫した作物を販売するビジネスの学習。

【午後】：ラグビートレーニング…フィジカルトレーニングや試合戦略の指導・実践的なスキルを磨く。

② 農業とラグビーの相乗効果…農作業はラグビー選手にとって理想的な筋力トレーニング

- ・牧場での作業（荷運び・動物の世話）は、体幹や持久力の向上に貢献。
- ・農業の知識を持つことで、選手のキャリアパス（職位や業務に到達する為に必要プロセス）が広がる。
- ・プロ選手にならなくても、農業分野で活躍できるスキルを獲得。
- ・栄養学と農業を連携し、選手自身が食育を学ぶ。
→栄養価の高い作物の栽培と、スポーツ栄養の実践的な学習が日常的に出来る。

2.「日本で応用するなら？」

「ラグビー×農業」を活かした日本の地域と応用可能なモデルをNZの成功事例をヒントに具体的な事例を考えてみた。

「ラグビー合宿×農業体験」イベントを開催

（次ページへ続く）

(前ページより続く)

- ・地元農家が協力し、農業体験付きのラグビー合宿を開催・・・ラグビー部員が農作業を体験
- ・農村地域で開催し、選手が地元の農業を体験するプログラムを作る。
- ・選手が地元農家と一緒に農業を体験し、地元の食文化を学ぶ。
- ・収穫した野菜を使った「選手と地元住民のBBQパーティー」を開催する。
- ・ラグビー観戦と地元の農産物フェアを組み合わせた試合イベントを企画してみる。

例：「ラグビー食育フェア」・・・(地元食材を使った食育グルメ等・合宿試合会場での販売・合宿所食事)

3.農業×スポーツ教育プログラムの開発

- ・農業高校と体育系高校のラグビー部が連携し、「スポーツ×農業教育プログラム」を開発。
- ・農業高校生がスポーツ栄養の観点から「ラグビー選手向けの食事メニュー」の考案にチャレンジ。
- ・収穫した野菜を使った「ラグビー選手向けの食事メニュー」を提供する。
 - ➡学生が地域農業を活かした「スポーツ栄養ビジネス」を学べる。
- ・ラグビー部員が農業実習を行い、「食とスポーツのつながり」を体験して学ぶ。
- ・学生が育てた野菜を、地元のラグビーイベントで販売。
 - ➡農業高校の学生がスポーツマーケティングを学び、農産物のブランド化に活かしていく。

4.ラグビー（スポーツ）×農業のコラボで、新たな地域ブランドを確立

- ・地域農業のPRになり、農作物のブランド化につながる。
- ・地元住民と選手の交流が生まれ、スポーツ文化と地域活性化が促進していく。
- ・合宿等での練習・試合前に選手が収穫した野菜を使った料理が提供される企画をしてみる。
- ・観光客が「スポーツ観戦+食」を楽しめる仕組みと合わせて、地元農産物が地域経済に貢献していく。
 - ➡農業とスポーツを通じた地域ブランディングが可能になっていく。
- ・試合後の地元食材を活用した「選手と地域住民の交流BBQイベント」を実施。

【まとめ】

NZのFeilding High Schoolの成功は、『スポーツと農業を融合させることで、地域社会に貢献しながら、学生のキャリアを広げる』という新しい教育モデルの可能性を示している。このような取り組みを日本でも展開すれば、ラグビーと農業を通じた持続可能な地域活性化が実現できると考える。

農業を学びながら共同作業である農業作業で知識と体力と食育を学び、学校卒業後に農業関連の職業に就き活躍する場を設ける事が大事である。

また、各農業地域も若い力と新しいアイデアを取り入れる事により地域活性にも大きく貢献できる。今回はラグビーに特化したメッセージだが、他のスポーツも農業に対するアプローチを考えると、ここ日本でも出来る事は沢山あり、行動していかないと国内農業はますます衰退していく事になっていく。

今回は私の一意見（メッセージ）だが、私自身も行動していこうと今回改めて思った次第。

学校単位での取り組みが各地域全体に広がり、継続的なプロジェクトに発展してスポーツのキャリアと農業を通じて得た教育が一体化し、「ラグビー×農業」のキャリアが学生ラグビー引退後（卒業後）に子供達が農業経営に進み、第二のキャリアを築ける仕組みを作る事が出来れば最高！

参考動画： <https://www.youtube.com/watch?v=aHaIKMhIZNw>

： https://www.youtube.com/watch?v=uINBKPo_eD4

参考資料： <https://www.cnirugby.co.nz/schools/feilding-high-school>



先日、静岡県で有名な「炭焼きレストランさわか」のげんこつハンバーグを食べに行き、ソースはミックスを選び両方味わいました。皆さんはデミグラスとオニオンどちらがお好みですか？

編集事務局：田口、山内

電話：03-5275-5511／E-mail：macjournal@mcagri.co.jp

URL <http://www.mcagri.jp>